ISSN 1881-3496

九州大学
大学文書館ニュース

第37号　2013.10.31

目　次

『東北大学百年史』編纂を振り返って……2
『九州大学 百年史 写真集』補遺……4
九州大学大学文書館委員会名簿……8
九州大学大学文書館名簿……8
大学文書館日誌抄録……8
九州大学百年史編集小委員会名簿……11
九州大学百年史編集室名簿……11
百年史編集室日誌抄録……11

「東公園の亀山上皇銅像前で万歳三唱を行う九州帝国大学生」（1943年10月19日）

1943年（昭和18）9月21日、政府は学生・生徒の徴集猶予の停止を閣議決定し、10月2日には理工医系・教員養成系諸学校以外の大学・高等専門学校の満20歳に達した学生・生徒の一斉徴集を実施することにした。いわゆる「学徒出陣」である。九州大学からは同年12月、法文学部生647人を中心に、合計694人の学徒が陸・海軍に入営・入団した。これに先立ち、九州大学では10月19日に工学部運動場で全学壮行会を挙行し、その後、荒川文六総長を先頭に筥崎八幡宮に参詣、続いて東公園の亀山上皇銅像前に参集して「万歳三唱」を行った。写真はこのときのもので、「学徒出陣」壮行会当日の様子を伝える貴重な資料である。

『東北大学百年史』編纂を振り返って

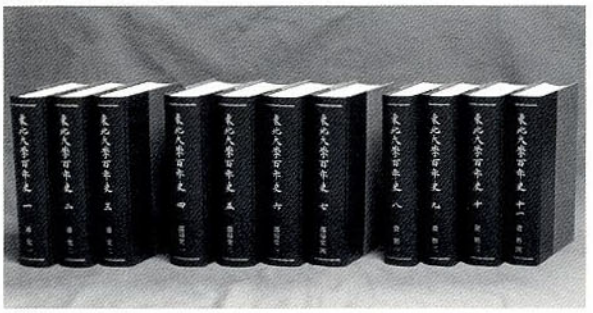
中　川　　学

はじめに

2009年（平成21）６月、九州大学大学文書館百年史編集室の藤岡健太郎さんが、東北大学百年史編纂室を聞き取り調査のため訪れている。当時、同編纂室に所属し、編纂実務を担当していた私に対し、藤岡さんは多くの質問を熱心に投げかけられた。

その時、私は1994年（平成６）に九州大学大学史料室（当時）を訪問し、折田悦郎さんたちから『九州大学七十五年史』編纂の話を伺ったことを思い出していた。東北大学における百年史編纂事業が始まる前、私たちもまた九州大学をはじめとする諸大学の聞き取り調査を行っていたのである。先学たちの口から率直に語られた大学史編纂のノウハウやその苦悩などは、私たちにとって大きな意味を持ち、それらは東北大学の百年史編纂計画に反映されることとなった。

こうしてみると、いくつかの大学における大学史編纂の経験が、編纂実務担当者を通じて伝播・継承され、サイクルのような動きにつながっていたといえるのかもしれない。しかし、聞き取り調査の結果は、記録されることがなければ情報として共有されることもない。そこで、本稿では『東北大学百年史』編纂を振り返り、かつて藤岡さんに話した（であろう）内容のなかから編纂の概要、その特徴について簡単に紹介するとともに、編纂終了後の動きについても記しておきたいと思う。



『東北大学百年史』全11巻（2003年～2010年）

１．編纂の概要

先行大学への調査と編纂構想の策定

東北大学において本格的な大学史が編纂されたのは創立50周年の時で、1960年（昭和35）には通史・部局史からなる『東北大学五十年史』全２巻が刊行された。編纂終了後、日本の大学アーカイブスの嚆矢とされる東北大学記念資料室が新設され、関連資料の収集・公開が始まったが、次の大学史編纂は創立100周年を待つことになる。

百年史編纂事業が動き出したのは、1993年（平成５）の百年史編纂構想委員会の設置以降である。同委員会では構想策定に先立ち、先行する主な大学、特に旧帝国大学であった東京・京都・九州・北海道・名古屋大学などを訪れ、聞き取り調査を行った。この調査を踏まえて、編纂の基本方針、編纂体制、巻次構成、編纂期間などの編纂構想が決定された。編纂の基本方針は、①創立以来の沿革、②学術的貢献、③社会的貢献、④未来への指針を明らかにするという４点である。さらに、『東北大学五十年史』の際には刊行されなかった資料編を充実させること、それを踏まえて『五十年史』の通史も全面的に書き直すことも決められた。

この編纂構想により、編纂体制も徐々に構築される。全学の歴史研究者を中心とした編集委員会、その上に各部局長から構成される百年史編纂委員会、そして各部局に部局史編纂委員会が設置された。1997年（平成９）４月には、片平地区の記念資料室（現在の史料館）の一角に百年史編纂室が設けられ、編纂事業が本格的にスタートすることとなる。

『東北大学百年史』の構成と編纂の工程

表１にあるように、『百年史』は全11巻で、『通史』３巻、『部局史』４巻、『資料』４巻から構成されている。『通史』１～２は創立前史から百周年までの大学全体の沿革、同３はテーマ史と年表を収録したもの、『部局史』１～４は各部局の歴史を記述したもの、『資料』１～２は文字資料、同３は統計資料、同４は画像資料を収録したものである。このほかに、当初は通史の小冊子版であ

る『東北大学百年小史』と『電子媒体版　東北大学百年史』などが予定されていたが、百周年記念事業の財政的問題により刊行が中止となった。

『通史』に関しては、編集委員会の下に設置された通史専門委員会のもと、『通史』3巻に対応させて執筆者（教員、約30名）を編成した3つの部会を設置した。同専門委員会は通史の編纂全体について審議し、第1～第3部会は『通史』各巻の構成・内容について検討と執筆に携わった。『部局史』は各部局史編纂委員会、『資料』は編纂室がそれぞれ執筆し、編纂室はこのほかに『通史』『部局史』の編集・校訂・校正、および学内外における資料の調査・収集と提供などにあたっていた。

表1　「『東北大学百年史』の構成と編纂の工程」

巻次	タイトル	内容	刊行年
第1巻	通史1	第1編　「東北大学の百年」　1897～1957年	2007
第2巻	通史2	第1編　「東北大学の百年」　1958～2007年	2009
第3巻	通史3	第2編　「東北大学の諸相」、第3編「年表」	2010
第4巻	部局史1	事務局、学生部、附属図書館、法文学部、文系学部、教養部など	2003
第5巻	部局史2	理学部、医学部、医学部附属病院、歯学部など	2005
第6巻	部局史3	薬学部、工学部、農学部、情報科学研究科、生命科学研究科など	2006
第7巻	部局史4	附置研究所・学内教育研究施設など	2006
第8巻	資料1	第1編　「東北大学の百年」	2004
第9巻	資料2	第2編　「東北大学の諸相」、第3編「式典・式辞」	2010
第10巻	資料3	第4編　「一覧・統計」	2009
第11巻	資料4	第5編　「画像資料」	2009

『百年史』の編纂・刊行計画は当初、『部局史』『資料』『通史』の順に、原則として年1巻ずつ刊行し、2007年（平成19）の創立百周年までに完了するというものであった。しかし、実際には執筆・編集の遅れにより数度、計画は変更され、2003年（平成15）の『部局史1』から2010年（平成22）の『通史3』まで、約3年遅れで全巻が完結した。編纂室設置から数えて13年をかけ、その後半は年に複数巻を刊行するという厳しい工程で遂行された事業であった。

2．編纂の特徴

編纂体制

『百年史』の編纂体制で特徴的なのは、史料館との関係であろう。百年史編纂室は史料館の建物のなかに置かれていたが、大学組織では別個の存在として位置づけられていた（事務組織も別）。もちろん、百年史編纂にあたり史料館は所蔵資料の利用に便宜を図り、編纂室も調査において収集した資料を史料館に移管するなど、相互に協力関係のなかにあった。史料館には関係資料の収集・整理・保存・公開という恒常的業務がある以上、それと切り離された組織が、密接な協力関係のもとで大学史編纂を担当するという形態は合理的であり、相互にメリットもあったと思われる。

研究会と編集・執筆マニュアル

編纂実務を振り返って、特に記憶に残っているのは編纂室主催の研究会「通史編纂のための研究会」である。おもに通史執筆者が参加し、『東北大学五十年史』『東京大学百年史』『京都大学百年史』をテキストとして14回にわたって開催されたもので、個々の大学史を比較しながら、その特徴や時代区分などを議論した。執筆者と編纂室とが、先行研究の成果とその問題点などを共有できた点は非常に有用だったと思う。

もうひとつは編集・執筆のためのマニュアル作成だろうか。これは『部局史』編纂のための『部局史編纂のしおり』と通史執筆のための『通史執筆のしおり』で、ともに40頁程度の小冊子である。これらは歴史叙述の方法を学んでいない執筆者（理系の教員など）に向けて作成されたもので、資料調査・分析、執筆、校正といった作業の概要とともに、執筆要項、基本資料のリスト、東北大学の仮年表を収録したものである。これらがどの程度利用されていたのかは判断が難しいものの、部局史・通史の関係者と編纂室とが編集と執筆作業の概要を共通認識とするために役立ったと考えている。

大学史としての個性

それでは『東北大学百年史』の特徴はどこにあるのだろうか。日本の大学史研究における評価は後学に委ねるしかないが、編纂実務に携わった立場から本としての個性を2点あげておきたい。1つは『資料』つまり資料編の充実である。前述のように、『五十年史』の反省を踏まえ、全4巻の『資料』には文字資料・統計資料・画像資料を収めた。なかでも画像資料は他の巻と同じサイズ（A4変型判）の本に、写真・図面などの資料を収録したものである。これまでの一般的な大学史では、大判の「写真集」的作りが多くみられ、頁ごとに収録される写真の大きさやキャプションの情報量に違いがあった。そこで、写真は1頁に2点、図面や空中写真は見開きに1点というように、収録

画像の規格とキャプションを統一し、それらを画像資料として利用者に提供しようという試みである。ぜひ一度、手に取ってご覧いただきたい。

もうひとつは『通史』における出典情報である。『五十年史』は評価の高いものであったが、通史の叙述に関する出典が不明な箇所があるとの声も寄せられていた。そこで『百年史』の『通史』では、できるかぎり出典を明記した編集を行い、たとえば『通史３』に収録された年表には、すべての掲載事項に出典か、他の巻（通史・部局史・資料）の関係頁を明記してリンクを容易にすることを試みている。

最後に、『百年史』で実現できなかった個性―電子媒体版について触れて、稿を閉じたい。前述のように、その当初は『百年史』全11巻の文字情報・画像情報を電子情報として収録し、キーワードによる検索システムを導入した『電子媒体版』の発行を計画していた。電子媒体版は省スペースや検索などメリットも多いものの、冊子版と電子媒体版とでは利用の仕方・読み方が異なるため、その両者がセットになってこそ、利用者に十分な便宜が図れるのではないか、という学内の議論を踏まえて計画されたものであった。東北大学における次の年史編纂では、冊子体とリンクした電子媒体版をぜひ実現してもらいたいと思っている。

おわりに－成果の還元へ

『東北大学百年史』編纂事業の終了後、百年史編纂室は閉室となったが、筆者は高等教育開発推進センターに移り、自校史教育等を担当することになった。『百年史』通史の成果をアレンジした「東北大学を学ぶ」や「東北大学のひとびと」、そして留学生向けの「History of Tohoku University」などがそれにあたる。これらは他大学でもよくみられる大学史の教育への還元の１つであるが、東北大学の場合、外国人留学生を対象とした英語による授業にも展開している点が特徴といえる[1)]。

このほか、筆者は教職員向けの初任者研修用のスライド「写真にみる東北大学の百年」を史料館と協力して作成したり、東北大学のプロモーションビデオWG委員として、広報用ビデオの制作にも関わっている[2)]。

『百年史』の成果は様々な形で大学に還元されつつあるといえるだろう。

〔注〕

1）東北大学における自校史教育の現状については拙稿「自校史教育と史料館」（『東北大学史料館だより』No17, 2012）を参照されたい。

2）その第一弾「東北大学の歴史紹介」はYouTubeで公開されている。URLはhttp://www.youtube.com/watch?v=qG0tZHbdU-o。
なお、東北大学の百年史編纂事業に関する詳細については、『東北大学百年史』通史３（2010）の「編集後記」および『東北大学百年史編纂室ニュース』第15号の「東北大学百年史編纂略年表」を参照されたい。

（東北大学高等教育開発推進センター講師）

『九州大学 百年史 写真集』補遺

折　田　悦　郎
藤　岡　健太郎

はじめに

2011年（平成23）８月26日、筆者らの責任編集のかたちで『九州大学 百年史 写真集』（Ａ４判、全280頁、九州大学百周年記念事業委員会。以下、『本書』と略す）を刊行した。九州大学百年史の別冊として、百年史編集作業の最初に出版されたものである。『本書』については、「西日本新聞」（2011年10月16日<朝刊、以下同>）、「讀賣新聞」（10月21日）、「朝日新聞」（10月23日）、「産経新聞」（10月29日）の各紙がその刊行を報じ、たとえば「西日本新聞」は「九大が百年史写真集　図面含め1000点掲載　藩校時代からの歴史紹介」という見出しのもと、「創立前史の収録にも力を入れ、福岡藩校「賛生館」だった時代までさかのぼって、約千点の写真や図面で１世紀を超える九大の歴史を振り返っている」と紹介し、折田もまた“九

大の歴史だけでなく、大学と地域との関係にも留意してご覧頂きたい"旨のコメントを行った。『本書』は九州大学百周年記念事業への寄付者や関係各機関への配付のほか、九大生協を通じて一般販売も行われ（刊行から2012年４月末日までの間は割引特価2980円で、現在は定価3800円で販売中）、好評を得たと聞いている。そしてこのような事情もあり、『本書』の刊行後には幾人かの卒業生・関係者の方から新たな資料の寄贈や写真（データ）の提供を頂くことができた。それらのなかには、本来ならば『本書』に所収してしかるべきものも何点か存在している。本稿では編集担当者として、これらの紹介を行い、『本書』の「補遺」としたい。

1　学生証、留学生関係写真

まず最初の写真２枚は留学生関係の写真で、『本書』でいえば第３章「戦前戦中期の九州帝国大学」のうちの「戦前の留学生と国際交流」（082頁～083頁）に入るものである。両方とも1934年（昭和９）４月～1937年（昭和12）３月まで九州帝国大学（以下、九州帝大）工学部採鉱学科に在籍した中国（中華民国）人留学生の郭書起氏にかかるもので、ご令嬢の郭曼麗氏（元中国紡織大学教授）とご令孫の李瀾両氏から、2012年（平成24）１月24日に直接ご提供頂いた。写真１は、1932年（昭和7）10月１日、学外者との区別や盗難防止を名目に実施された「学生証」の、写真２は、1936年（昭和11）に工学部本館玄関前で撮影された「中華民國留日九州帝國大學同窓會送別會」の写真である。学生生活と関係の深い「学生証」の制度が初めて実施されたのは、上記のように1932年10月のことであり、写真１はその早い事例に属す。また、戦前期の九州帝大には延べ733名の留学生が在学し、このうち388名が中国からの学生等であった（折田「九州帝国大学における留学生制度について」、同編『九州帝国大学における留学生に関する基礎的研究』、科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ）（２））研究成果報告書、１～19頁、2004年３月）。中国人留学生は、1937年（昭和12）７月に勃発した日中戦争によって相継いで帰国するので、写真２（1936年）はそれ以前の九大留学生を写したものとして大変珍しいものとなっている（郭氏は最後列右から２人目）。

2　学徒出陣関係写真

写真３は、前掲表紙写真（『九州大学大学文書館ニュース』第37号、１頁）の解説でもふれた、1943年（昭和18）10月19日の「学徒出陣」全学壮行会後に参詣した筥崎八幡宮の写真である。この写真は上述の表紙写真と同様、中楯潔氏（1975年３月、九州大学経済学部卒業）からデータの提供がなされたもので、ご尊父故中楯興氏（1944年９月、九州帝大法文学部卒業。のち九大経済学部教授、同名誉教授）の遺品である。中楯興氏は、1942年（昭和17）４月、九州帝大法文学部（経済科）に入学し、1943年12月１日、「学徒出陣」により陸軍西部第8064部隊に入隊した。中楯資料には、これら２枚の写真のほかに、総長を先頭に行進しながら正門を出て行く九大生の写真など、他の「学徒出陣」関係の写真も含まれている。福岡における「学徒出陣」壮行会は、明治神宮外苑で挙行された関東地区（東京都、神奈川・埼玉・千葉県）の壮行会のような帝大・私立大学等による合同壮行会ではなく、九大単独でなされ、「東京のように銃を持って行軍するのではなくて、普通

写真１ 郭書起氏の学生証
（1934年５月）

写真２「中華民國留日九州帝國大學同窓會送別會」（1936年。於工学部本館玄関前）

の学生服、本当に勇躍して学徒出陣すると言うんじゃないんです」「とにかく勇ましい壮行会じゃなかった」（内田勝敏氏他「聞き取り記録」、折田編『九州大学における学徒出陣・学徒動員』、1～27頁、2008年3月）と回想される行事だったが、今回の写真は壮行会当日の様子を直接知りうる貴重な資料である。そのためこれらの写真については、2012年（平成24）8月18日の「西日本新聞」（朝刊）に、2面にわたって「九大生の写真見つかる」「学徒悲しき壮行会」という紹介がなされ、また、本年8月21日にはＮＨＫ福岡放送局から全国に向けて「大学と戦争」を象徴する資料として報道された。

なお、九州帝大の「学徒出陣」に関連しては、同じく中楯潔氏と本学の伊藤昌司名誉教授（法学部）から、写真4と写真5のデータが提供された。前述の中楯興氏は九大在学中から日記を付けており、写真4はその日記（『随想』）の一部で、掲載したのは全学壮行会当日の記述である。日記全体が戦時下の学生生活を叙述した“証言”であるが、参考のため、下に写真4の翻刻を掲げておこう。

十月十九日　火曜　晴天

からりと晴れ渡つた一点の雲もない深い秋空の下午後一時半より壮行会。総長以下全学教授学生出席、工学部グラウンドにて行はる。総長訓辞、在学生代表激励、出征学生応答、箱崎八幡参拝、亀山上皇銅像参拝、敵国降伏の盟も固く帰校、なつかしの法文学部玄関前にて菊地教授の声涙下る様な激励の辭に我等は今更ながら征く者送られる者の感切実、感激に胸おののくのであつた。各教授よりそれぞれ神護符を戴田中教授より戴いて今更ながら胸の中にひらめくもの異常な緊張におそはれた。夜世良、高崎、長谷川、森、水木相会つてすき焼きをつつく。

次の写真5は、農学部（農学科）における「学徒出陣」壮行会である（1943年11月22日）。当時、いわゆる理工系の学生には「学徒出陣」の免除がなされたが、農学部農学科の学生にはこの特権が適用されず（農芸化学、林学、水産学、農業工学科の学生には適用された）、その結果、九州帝大からは46名の農学科生が出陣した。

3　九大演習林関係写真

1911年（明治44）1月に創立された九州帝大には、翌年12月にまず朝鮮に、次いで台湾（1913年12月）、樺太（1914年4月）に演習林が設置された。これは九大に農学部が創設される以前の出来事であり、これらの演習林の存在は農学部創設の大きな原動力となった（農学部創設は1919年2月）。写真6は『本書』でいえば、第2章「九州帝国大学の創立と発展」の「農学部の創設」（035頁）に入るもので、樺太演習林の近隣に住む先住民「ギリヤーク」（現ニヴフ）を写したものと思われる。樺太演習林は、寒帯原生林の研究・経営のために設置され、その位置はロシア国境に近い「敷香郡敷香町大字保恵」（『九州帝国大学農学部附属樺太演習林要覧』、1932年11月）に在った。写真は1913年（大正2）8月、演習林設置に先立つ現地調査を依頼された東京帝大農科大学の右田半次郎林学博士によって撮られた

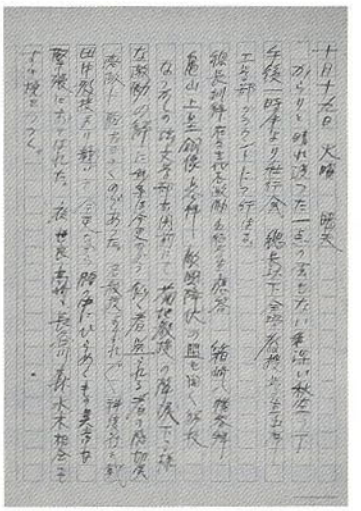


写真4　「学徒出陣」壮行会当日の中楯興氏の日記（1943年10月19日）

写真3　筥崎八幡宮に参詣する九州帝大生（1943年10月19日）

写真5　農学部での「学徒出陣」壮行会（1943年11月22日）

写真６「樺太幌内川岸ホイエ部落首長ノ住宅」
（1913年８月）

もので、九大演習林本部所蔵の『樺太演習林ニ関スル書類（一）』の中に所収されていた。2013年３月刊行の『九州大学演習林百年史』編集のための学内調査で見つかった写真であるが、九大演習林史だけではなく樺太研究史の上でも貴重な写真だといわれる（日本学術振興会特別研究員の加藤絢子氏のご教示による）。

むすびにかえて

以上、『本書』の刊行後に寄贈・提供して頂いた写真（データ）の紹介を行った。なお、下記の表１は刊行後に誤植等として判明したものである。本稿の最後に当たり、お詫びして訂正しておきたい。

また、表２は『本書』の「口絵」写真に関するデータの追加である。“九州大学の「二百年史」のことを考えれば、口絵についても撮影年を明記しておくべきではないか”との早島瑛氏（元関西学院大学教授）の御教示により、下に記すものである。

現在、九州大学百年史の編集は来年３月の第４巻『部局史編Ⅰ』、第８巻『資料編Ⅰ』の刊行を目指して鋭意作業中である。『本書』の補訂情報のご提供と同時に、今後の『百年史』編集へのご協力をお願いして本稿を終えたいと思う。

（折田悦郎：大学文書館教授　藤岡健太郎：同准教授）

表１　正誤表

頁	訂正箇所	誤	正
056	3-009	箱崎地区（四方回転写真）	箱崎地区（パノラマ写真）
065	解説文（右段上から５行目～７行目）	前者は、論語季氏編第十六の「君子有三畏」に因み、後者は孟子尽心章句の「君子有三楽」	前者は、『論語』季氏篇第十六の「君子有三畏」に因み、後者は『孟子』尽心章句上の「君子有三楽」
070	3-077	理学部構内より志賀島を望む（昭和28年）右側より理学部四、五、六号館。	理学部構内より志賀島を望む（昭和28年）右側より理学部旧四、五、六号館。
197	7-145	開学記念講演会（左中村哲氏、右河原尚行氏、平成19年）	開学記念講演会（左中村哲氏、右川原尚行氏、平成19年）
232	九州大学年表	1932年11月１日　学生証を実施。	1932年10月１日　学生証を実施。
252	写真・資料提供	佐藤祐	佐藤裕

表２　口絵写真一覧

正門／桂木勝彦氏撮影	平成16年
旧工学部本館／桂木勝彦氏撮影	平成16年
青山熊治「九州大学工学部壁画」（旧工学部本館会議室）／桂木勝彦氏撮影	平成23年
大学本部／桂木勝彦氏撮影	平成23年
地蔵の森／桂木勝彦氏撮影	平成16年
正門前緑地／桂木勝彦氏撮影	平成22年
工学部創立75周年記念庭園／桂木勝彦氏撮影	平成15年
地蔵の森／桂木勝彦氏撮影	平成16年
箱崎文系地区／桂木勝彦氏撮影	平成23年
農学部構成見本園／桂木勝彦氏撮影	平成22年
九州大学病院と「神の手」の像／桂木勝彦氏撮影	平成22年
医学部基礎研究Ａ棟／桂木勝彦氏撮影	平成23年
筑紫地区／桂木勝彦氏撮影	平成22年
筑紫地区の紅葉／桂木勝彦氏撮影	平成22年
芸術工学部1号館／桂木勝彦氏撮影	平成21年
大橋地区噴水広場／桂木勝彦氏撮影	平成21年
「青陵の泉」の像（旧六本松地区）／桂木勝彦氏撮影	平成20年
九州大学病院別府先進医療センター／九州大学病院別府先進医療センター提供	平成22年
伊都地区ウエスト４号館玄関上部／桂木勝彦氏撮影	平成18年
伊都地区センター２号館／桂木勝彦氏撮影	平成21年
伊都地区ビッグどら屋上よりウエスト４号館を望む／桂木勝彦氏撮影	平成20年
伊都地区センター２号館／桂木勝彦氏撮影	平成21年
伊都地区ウエストゾーン／桂木勝彦氏撮影	平成18年

九州大学大学文書館委員会名簿

委員長		副学長	川本　芳昭
委　員	基　幹	教　授	新谷　恭明
〃	文書館	教　授	折田　悦郎
〃	人環院	准教授	高野　和良
〃	法　院	教　授	熊野　直樹
〃	理　院	准教授	伊藤　芳雄
〃	工　院	教　授	黒河　周平
〃	芸工院	准教授	岸　泰子
〃	医　院	准教授	相島　慎一
〃	歯　院	准教授	吉嶺　嘉人
委　員	比文院	教　授	中野　等
〃	言文院	准教授	阿部　俊大
〃	総　院	准教授	坂口　英継
〃	先導研	教　授	新名主輝男
〃	韓　セ	教　授	松原　孝俊
〃	図書館	館　長	川本　芳昭
〃	博物館	館　長	吉田茂二郎
〃	総務部	部　長	松浦　晃幸
〃	図書館	部　長	益森　治巳

（2013年10月１日現在）

九州大学大学文書館名簿

館　長		副学長	川本　芳昭
副館長	基　幹	教　授	新谷　恭明
専任教員	文書館	教　授	折田　悦郎
兼任教員	人文院	教　授	佐伯　弘次
〃	人文院	准教授	山口　輝臣
〃	法　院	教　授	植田　信廣
〃	法　院	教　授	熊野　直樹
〃	比文院	教　授	中野　等
〃	シ情院	教　授	荒木啓二郎
専任教員	百年史	准教授	藤岡健太郎
専任教員	百年史	助　教	井上美香子
テクニカルスタッフ			清原　和之
〃			徳安　祐子
兼任事務職員	総務課長		村松　哲行
〃	法令審議室長		村松　哲行
事務職員			名切　光子
事務補佐員			松尾　陳代
〃			川畑　由美
〃			小野　保和

（2013年10月１日現在）

大学文書館日誌抄録（2011年７月～2013年３月）

7.15（金）　折田悦郎教授、新任主任研修で「九大の歴史―箱崎キャンパスで学ぶ―」を講義（於旧工学部本館会議室）、大学文書館案内。
古河産機システムズより大学文書館視察のため来館。

7.21（木）　財務部資産活用課より資料移管（12月６日も同様）。

8.1（月）　日野正道氏（前伊都共通事務部）再任用。

8.4（木）　第16回九州大学大学文書館委員会開催（書面回議）。

8.12（金）　附属図書館より資料受領。

8.24（水）　近畿大学より大学文書館視察のため来館。
西日本新聞社より電話取材（『九州大学百年史写真集』刊行の件）。

8.26（金）　『九州大学百年史写真集』刊行。

8.27（土）　文学部同窓会、展示会開催（於中央図書館。大学文書館所蔵資料、写真パネル等の展示を行う）。

8.29（月）　平成23年度公文書館等職員研修会（国立公文書館主催）、折田教授参加（於東京ＫＫＲホテル。～31日）。

9.6（火）　名古屋大学大学院教育発達科学研究科「高等教育マネジメントプログラム」コースの実習「フィールドスタディー」の一環として、大学文書館の視察・見学（折田教授案内）。

9.16（金）　東京大学大学院教授、大学文書館視察のため来館。

10.1（土）　折田教授、「六松会」（旧六本松地区教職員懇親会）にて「九州大学六本松キャンパスの歴史」を講演。

10.3（月）　姫路市立美術館に「孤城朝暾」（南薫造画。大学文書館所蔵）貸し出し（～11月17日。「描かれた姫路城」展）。
10.5（水）　ＮＢＣ長崎放送より取材のため来館（旧工学部採鉱学科実習報告書の件）。
10.7（金）　「九州大学の歴史」（少人数ゼミ）開講（折田教授）。
10.15（土）　西日本新聞社記者、取材のため来館（『九州大学百年史写真集』の件）。
10.17（月）　沖縄県公文書館より大学文書館視察のため来館。
10.20（木）　記者懇談会、折田教授出席・説明（『九州大学百年史写真集』の編集・刊行について）。
10.22（土）　第１回九州大学福岡同窓会（九大アラムナイフェス）開催、「写真で見る「九大百年」展」、「九州大学六本松地区模型」（大学文書館所蔵）展示。
10.25（火）　コペンハーゲン大学異文化研究・地域研究所より資料調査のため来館。
11.4（金）　長崎大学財務部財務管理課より資料調査のため来館（2012年１月25日、３月16日、４月18日も同様）。
11.7（月）　九州大学サイエンスカフェ（Qcafe 2011ミュージアムカフェ）にて、折田教授、「写真集でみる九大百年―箱崎馬出物語―」講演（於箱崎水族館喫茶室）。
11.14（月）　国立公文書館より来館（デジタルアーカイブの件）。
11.16（水）　国際公文書館会議東アジア地域支部（EASTICA）第10回総会及びセミナー開催（折田教授セミナー参加。於グランドアーク半蔵門。～17日）。
11.19（土）　第６回「ホームカミングデイ」開催（「写真で見る「九大百年」展」、「九州大学六本松地区模型」展示、「記念絵葉書」編集）。
12.12（月）　熊谷正純氏より資料寄贈（1月12日も同様）。
12.14（水）　国際部国際企画課より資料受領。
12.15（木）　『九州大学大学文書館ニュース』第36号刊行。
1.19（木）　一橋大学附属図書館より大学文書館視察のため来館。
1.24（火）　郭曼麗・李瀾氏来館、資料寄贈。
1.30（月）　東京大学総務部総務課より大学文書館視察のため来館。
2.1（水）　内閣府より大学文書館現地調査のため来館。
2.6（月）　ＦＢＳ福岡放送より取材のため来館（アインシュタイン来学の件）。
2.15（水）　広島大学文書館より大学文書館視察のため来館。
2.23（木）　長崎県西海市教育委員会より資料調査のため来館（４月18日、19日も同様）。
2.27（月）　ＫＢＣ映像より取材のため来館（旧工学部採鉱学科実習報告書の件）。
3.1（木）　学習院大学人文科学研究科アーカイブズ専攻科より大学文書館視察のため来館。
3.5（月）　日本大学文理学部より大学文書館視察のため来館。
3.26（月）　総務部総務課より資料受領（４月４日、５月17日、22日も同様）。
3.28（水）　早稲田大学国際情報通信研究センターより資料調査のため来館（29日、４月２日も同様）。
3.31（土）　中村俊郎氏（事務職員）退職。
4.2（月）　西日本新聞社記者、取材のため来館（「九大紛争」の件）。
4.11（水）　折田教授、新採用職員研修で「九大の歴史に触れる」を講義（於旧工学部本館会議室）、大学文書館案内。「大学とはなにか―ともに考える―」（総合科目）開講。
4.17（火）　九州大学学生寮同窓会（旧田島寮同窓会）に田島寮旗貸し出し。
4.25（水）　第18回九州大学大学文書館委員会開催。
4.27（金）　九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ開催（折田教授出席。５月８日、17日、６月15日、７月26日、11月15日も同様）。
5.7（月）　大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻生、授業（ＰＴＬ）のため来館（５月21日も同様）。
5.11（金）　『九大百年』（ＤＶＤ）作製。
5.12（土）　九州大学創立百周年記念式典、九州大学創立百周年記念祝賀会開催、

『九大百年』（ＤＶＤ）上映（川本芳昭館長、折田教授、藤岡健太郎准教授出席）。
「写真で見る「九大百年」展」開催。平野博文文部科学大臣、「写真で見る「九大百年」展」を視察、折田教授案内。

5.13（日）　山川健次郎初代総長胸像設置・除幕式（川本館長、折田教授出席）。

5.17（木）　西南学院100周年事業推進室より大学文書館視察のため来館。

5.23（水）　「伊都キャンパスを科学するＩ」（総合科目）の一環として、折田教授「九州大学史と伊都キャンパス」を講義。

5.30（水）　大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻連続講演会「ライブラリーサイエンスの現在」（第９回）の一環として、折田教授「九州帝国大学法文学部の創設―大学文書館資料から見た―」を講演。

6.4（月）　第19回大学文書館委員会（書面回議）。

6.18（月）　福岡県田川市石炭・歴史博物館より資料調査のため来館。

7.2（月）　大学院工学研究院松村晶教授（九大フィルハーモニー・オーケストラ顧問）来館、資料寄贈。

7.4（水）　立命館大学総務部立命館百年史編纂室より大学文書館視察のため来館。

7.13（金）　新任主任研修の一環として、折田教授「九大の歴史―箱崎キャンパスで学ぶ―」を講義（於旧工学部本館会議室）、大学文書館案内。

7.27（金）　和歌山大学附属図書館長、大学文書館視察のため来館。
西日本新聞社記者、取材のため来館（学徒出陣の件。８月３日も同様）。

8.2（木）　伊藤昌司名誉教授（大学院経済学研究院）より資料寄贈（10月24日も同様）。

8.14（火）　朝日新聞社記者、取材のため来館（自校史教育、「九州大学の歴史」の件）。
ＮＨＫ放送センターより電話取材（旧制福岡高等学校生の件。20日も同様）。

8.17（金）　西日本新聞社記者、取材のため来館（学徒出陣の件）。

8.21（火）　福島県会津若松市子ども会育成協議会より伊都キャンパス見学、折田教授案内・講義。

8.29（水）　福岡県共同公文書館より大学文書館視察のため来館。

8.30（木）　大学院医学研究院（外科学第二講座）より資料調査のため来館、資料提供（2013年１月23日も同様）。

9.4（火）　福岡県立美術館より資料調査のため来館、資料提供（11月５日も同様）。

9.11（火）　旧制福岡高等学校同窓会（青陵会）９月例会開催、折田教授「大学誘致・設置運動と地域」を講演（於学士会福岡支部）。

9.26（水）　折田教授、藤岡准教授、資料調査のため韓国慶尚大学校農業生命科学大学、学術林視察（～28日）。

10.5（金）　「九州大学の歴史」（少人数ゼミ）開講（折田教授）。

10.11（木）　全国大学史資料協議会2012年度全国研究会開催、折田教授「大学アーカイヴズと地域貢献―九州大学の歴史を通じて―」を報告（於同志社大学）。

10.20（土）　九州大学ホームカミングデー＆アラムナイフェス開催（「写真で見る「九大百年」展」、「九州大学六本松地区模型」展示）。

11.2（金）　総務部基金事業課より資料受領（11月14日も同様）。

11.8（木）　全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会及び研修会開催（折田教授参加、於広島県立文書館。～９日）。

11.15（木）　旧制福岡高等学校創立90周年記念式典開催、折田教授「九大百年史に見る旧制福岡高等学校」を報告（於西鉄ソラリアホテル）。

12.5（水）　文学部との共催で『九州大学百年史』編集事業協賛特別講演会を開催（折田教授「九州帝国大学法文学部の創設と展開」講演、藤岡准教授「九州大学百年史の編集について」報告）。

12.11（火）　農学部附属演習林創立百周年記念式典開催（折田教授、藤岡准教授出席、於医学部百年講堂）。

12.12（水）　韓国慶尚大学校准教授、同助教、大

学文書館視察のため来館。
12.14（金）　武谷峻一名誉教授来館、資料寄贈。
1.15（火）　『九州大学大学文書館』（リーフレット）刊行。
1.28（月）　貝塚地区事務部教務課より資料受領。
2.1（金）　北海道大学大学文書館長、東北大学附属図書館長、大学文書館視察のために来館。
2.7（木）　島根県教育庁文化財課世界遺産室より資料調査のため来館。
2.20（水）　内閣府より大学文書館現地調査のため来館。
3.6（水）　朝日新聞社記者、取材のため来館（箱崎キャンパスの件。3月26日も同様）。
3.9（土）　近代日本研究フォーラム等との共催で「学術研究の戦前・戦中・戦後―大学史の新地平―」を開催（藤岡准教授「九州帝国大学の満洲国調査研究」報告、折田教授コメンテーター）。
3.27（水）　大学講堂展示運営会議開催（折田教授出席）。
「九州大学箱崎地区建物模型」製作、大学文書館へ搬入。
「九州大学 2013年度 CALENDAR」刊行（製作協力）。
3.31（日）　『九州大学大学史料叢書』第19輯刊行。
日野正道氏（事務職員）退職。

九州大学百年史編集小委員会名簿

委員長	基幹教授	新谷　恭明	
委員	法院教授	植田　信廣	
〃	文書館教授	折田　悦郎	
〃	比文院教授	中野　等	
委員	人文院准教授	山口　輝臣	
〃	シ情院教授	荒木啓二郎	
〃	法院教授	熊野　直樹	

（2013年10月1日現在）

九州大学百年史編集室名簿

室長	基幹教授	新谷　恭明	
専任教員	准教授	藤岡健太郎	
〃	助教	井上美香子	
テクニカルスタッフ			清原　和之
〃			徳安　祐子
事務補佐員			小野　保和

（2013年10月1日現在）

百年史編集室日誌抄録（2011年10月～2013年7月）

10.4（火）　理学部等教授会議事録撮影（～5日）。
10.11（火）　農学部百年史編集委員会列席。
10.12（水）　システム情報科学府教授会議事録撮影（～13日）。
10.20（木）　法務学府教授会議事録撮影。
10.24（月）　工学部等教授会議事録撮影（～28日）。
11.8（火）　総合理工学研究院等教授会議事録撮影（～9日）。
文学部歴史編纂室会議列席。
11.11（金）　医学部等教授会議事録撮影（～25日）。
11.15（火）　比較社会文化研究院等教授会議事録撮影（～16日）。
11.28（月）　医学部保健学科等教授会議事録撮影。
12.9（金）　工学部百年史編集委員会列席。
12.14（水）　（旧）教養部百年史編集委員会開催。
1.4（水）　理学部等教授会議事録撮影（～6日）。
2.3（金）　部局長会議議事録撮影（～7日）。
2.13（月）　文学部歴史編纂室会議列席。
3.21（水）　工学部百年史編集委員会列席。
4.11（水）　文学部歴史編纂室会議列席。
4.16（月）　『九州大学百年史』WEB編集システム稼働開始。
5.10（木）　（旧）教養部百年史編集委員会開催。
5.24（木）　文学部歴史編纂室会議列席。

5.31（木）　芸術工学部部局史WG列席。
6.11（月）　教授会議事録等議題目録作成完了。
6.12（火）　第８回百年史編集小委員会（平成23年度決算、平成24年度予算、通史編Ⅰ細目次案、資料編Ⅰ細目次案、等）。
6.28（木）　文学部歴史編纂室会議列席。
7.30（月）　第９回百年史編集小委員会（通史編Ⅰ執筆者案、部局史編について、等）。
8.3（金）　（旧）教養部百年史編集委員会開催。
8.30（木）　市原猛氏（テクニカルスタッフ）退任。
9.1（土）　牛島明氏（テクニカルスタッフ）着任。
9.10（月）　第８回百年史編集委員会（平成23年度決算、平成24年度予算、通史編Ⅰ細目次・執筆者案、資料編について、等）。
12.11（火）　統合新領域学府部局史編集委員会列席。
12.18（火）　第10回百年史編集小委員会（書面回議、資料編Ⅳ細目次案について）。
1.28（月）　文学部歴史編纂室会議列席。
2.26（火）　「部局史編編集に関するアンケート」実施。
3.5（火）　統合新領域学府部局史編集委員会列席。
3.15（金）　牛島明氏（テクニカルスタッフ）退任。
3.31（日）　横山尊氏（テクニカルスタッフ）退任。
4.1（月）　清原和之氏、徳安祐子氏（テクニカルスタッフ）着任。
4.3（水）　文学部部局史・研究室史連絡委員会列席。
4.16（火）　文学部歴史編纂室会議列席。
4.23（火）　第11回百年史編集小委員会開催（平成25年度予算案、資料編Ⅰ細目次案、資料編Ⅳ細目次案について、等）。
5.22（水）　文学部部局史・研究室史連絡委員会列席。
5.29（水）　第９回百年史編集委員会（平成24年度決算、平成25年度予算、資料編Ⅰ細目次案、資料編Ⅳ細目次案、部局史編について、等）。
7.24（水）　文学部部局史・研究室史連絡委員会列席。
人間環境学研究院FDにて部局史編に関する講演（山口編集委員・藤岡准教授）。
7.30（火）　第10回百年史編集委員会（書面回議、資料編Ⅰ細目次案について）。

九州大学大学文書館ニュース　第37号
Kyushu University Archives

発行日　2013年10月31日
編集
発行　九州大学大学文書館
〒812-8581 福岡市東区箱崎６－10－１
Tel:092-642-2292　Fax:092-642-7646
印刷　株式会社ミドリ印刷